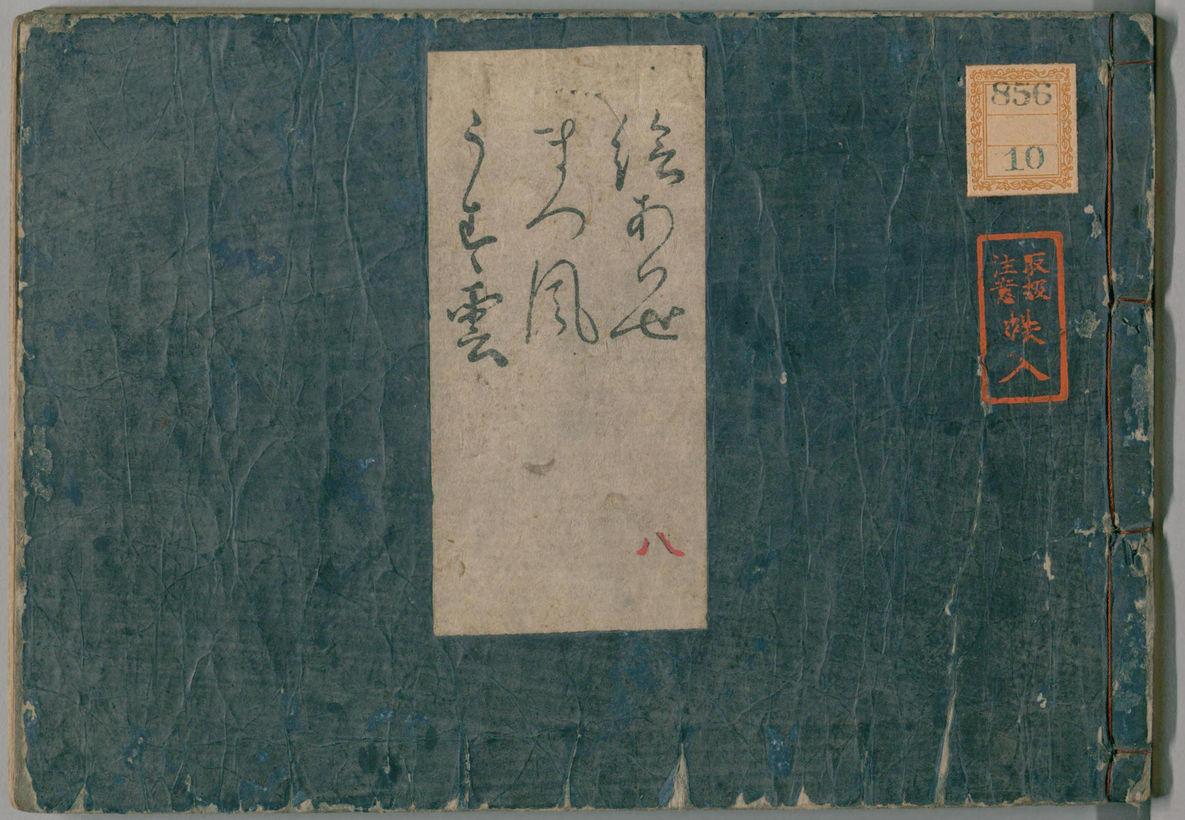


国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10

ガラス使用

856-10

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

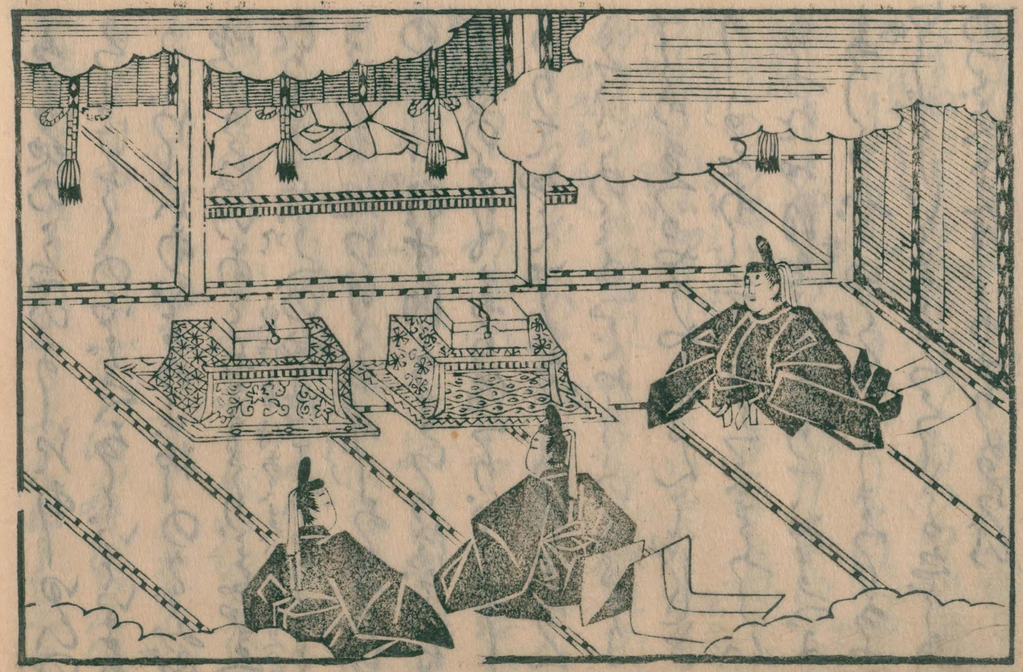
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

じまれざらでも人をとるまじに
ほどあらじ。あながちにこのこちな
ふくなしひそといさめさせあひて。
ほんざいのうちぐ乃。おもしへさせ話
しに。つくなれしともなく。まくそり
こそ〳〵しことし心うることも伸ざりき。
そうことのこなん。あやしくそうなれ
おもいかしてうれしくぐりかれ
てこるべきと。心ふかりく伸しと。おほ
えぬらがりにあくよものあれかき
心をたしに。けしにそひよりぬくあ
なくいうれしうど。筆のゆくか
ぎりなて。心よりはしゆうずなん
心ふかへらましと。ついでなくてけん
ぞさすべきなくぬばかうすきぐ
しきやうなるのちれ此ゆくやあらんと。

たこは中ゆへぐ。なまのざしも心より
そなちて。なしふべきいざなしぬど。
みちくよものしあり。まくひび所
あらんはしのふかさあさはしぬ
どとのづかしうつさんにあとまあぞ。
筆とるみちとごろしとぞ。あや
しうむしぬ乃ひどこゆるを。ふうき
らうなくこゆるとれものもさるべき
あくかれうつくぬぐひもいでくれど。
いへのこの中にはなをくにぬけぬる
人乃なにごとともこのこえけると
ぞたくこう。院のけまへにて。みこを
ゆ部王。いづれかはさ母ぐ。そりぐの
ざえなしけせあいざりかん。それ中
にもそりこそこうけんにいれて。つ
こくうけさしをなくうひありて。

りんざいをださる物ふくいたぶ。さ
らぬしの中まれ。琴しひりをなふと
なんいちのげしまく。つぐよはよこ
ふえ。琵琶さうのことをなん。つぎく
にならひまくるとうへもおぼしのこ海
ゑ世ま。世の人さるとひ中まくさ世
ゑるを。えいなを筆のついくますさ
ひさ世なふおくことこそとひまへ
しかどいとうまさなれまで。いま
しへのすみがき乃ぐぐ式おとを
くらうなし所べかめるを。かつりてあ
しからぬけざなりと。打こぶれて
中のし給ひく。えひなきまや。流の
所ことゆゑ出ゑく。打さ得られなぬ。
地 井余日の月さし知ゑくなく。
まぐさやうならぬど。たゞ此事

知ゑしきほとなるに。ふんのつきぬ所
ことめし出ゑく。撰中納言まごん給
ひり給。さいつぐ。人まれ海さりて
かきこそまくり見こ所うの所こと。
粗とぎん。びまはおおの家ぬつう
まつる。うへ〳〵此中ますぐれこるを
百く。えうしなりす。いこじう知ゑ
ろし。あけたつる海ゑ。むのいろも
人此所ゑちも目のうま見えて。為
の所えづる程。ふちゆきめでこさ
知ゑけなり。ろくどもは。中ぎの
所方より給ひす。見こは所ぞ。又きさ
ねくなりり給。そこゝろ此とりは。
此之乃所ゑめをしなふかのこゝく
のまきは。中ぎまさつゝりをなへと
こゝうしさ世給ふれだ。これがうじあ。

のどうるるをしめてこゝろつくせ
給ふほとけ諸のいとなみうして
をさせなめるよ。すゑの見ぐちなし
さ母よりしづきいぐして尺んとな
げし給すなぞ。とくすてなんと
いかゞげるる。いかよなげしをきつる
はかといはさりかくし

源氏物語ノ事有　二条院歌

ひんがしの院つくりこそ。むちる
里ときこえしうつろりし給。
西のこいわこぎなどかけて。まごこ
ろけいしなどまぐきさ母よしを
うせな。東のこいはありしの所をを
おげしをはくこり。小のこいはこと
よおろくつくしをあひて。かりまて
も氣となげしこゝりすゑかけて
ちぎりこりめなしんで。はどひ
すむべきさ母よ。ぐそくしつらせ
なつかしも。なつかしう尺ぶありて
こゝろなり。しんでんはふこげなりぶ。
源ノ内やすしぶおしも
ときぐ。はこり給はすこぶにして。
さうかくなる所しつらひぞしさとう
せなり。ありしまは所せうこと
こゝろずいまはなをのがりなめべ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10
ガラス使用

ごと人すまぬべくらいつくろひなさ
まなんやといふあづかりけそしどろ
らうづる人もものしなりずあやし
きやぶまなりて侍れど、さもや
はぞつくろひてやどり侍るを、この
寿の御より、内の御(源)目敷のつくら
(桂嘉三)
(すまくり)
さまの御堂ちらくて、かのひらりなん
いと人げさいがしうなりまて侍る
いかめしきのごうだくそ、おもひみ
人なんつくりいとなき侍める、さづか
なる御ほいなるだ、それやかひ侍ん
(合行)
なふかそれも、かれ(源)さのしのかけり
かくかけてとしふことありてどのづ
かうとひくに、うちのことだいさん
さづいそぎて、御ほうのことだを
(やどりり行)
抽せよといふ、ごづらうづる所

に侍らぬど、文さりつくへ、なん人もな
けまだ、かどかなるなりしひまく
としびかくろへ侍つるなりこさり
の田ならけなどいふことのいく
づよあれ侍しかば、(高明親王二男伊行)
の(高明親王二男伊行)
なりてなん、らうじつくり侍るを
なんと、そのあたりのこくのこと
だをあやうげよさく、いげがちに
ほなしまくきうほをたなれどう
ちあかめつ、たちぶきいへだ、(合行)
よその田などやうのことに
さるまじ、さぐ、びのやうにさて
抽せよ、(券)けんなどいとしになんあれ
ど、すべく世中を捨てる身なりて
としびともかくもとづぬさしぬを、

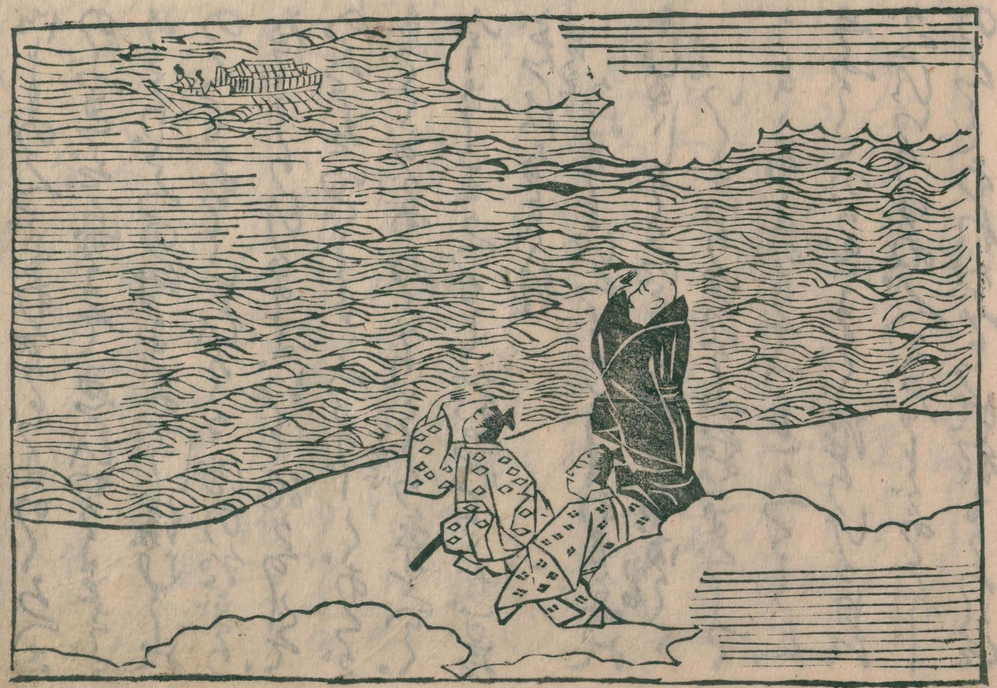
そのことゝもはまくらしくさてつめん
あらはるゝをおぼしのけしきもとく
まゐりつゝりくしてそのちりのある
ざねりくらうけとりてなんいそぎつ
くりけるやうれさいなるんとも
ありあうでのびんしきをおもうが
もゆるすおぼし、さうざんのさくてつ
くじことおもしまでのちのよにも人
のいひつたらん。今ひときはよくこそ
たちまちやとおもはすまよひくり
そてぞさくの所とすんさらむ
こうとゆえうさせけり、人にほどら
れんしきとくうしげなのこぬる。
てきふなりゐりしもゆしまふ。
御おしりぬ、心のありゐるおもず
しすりぬ御さぬ、身にのせうつ

道をいろとめくいろひつゝすゝ
人なれどつかうしてさるべきさま
にかうしこのよういふほどもさせ
おそりおそり御しうそへづら
にうらひろ所のさまおかしく作る
とゆかれど、きやうのすまゐには
あらうずいかめし下とおぼすに
ふる雪にはうちはだちかくものあるに
わたりて瀬ゞのかゞりびどものう
ずおりしろきさまりらうへ汁
づにえもいはぬ松かげなるにのい
とりよくそてつえんでんのと
そぎさうさ母にそのづうら堂の
ゑをとこせり、うちのまつらひを
まくおぼしよう、まつるかくて
やうじうあひてくらしつらず。

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10
ガラス使用

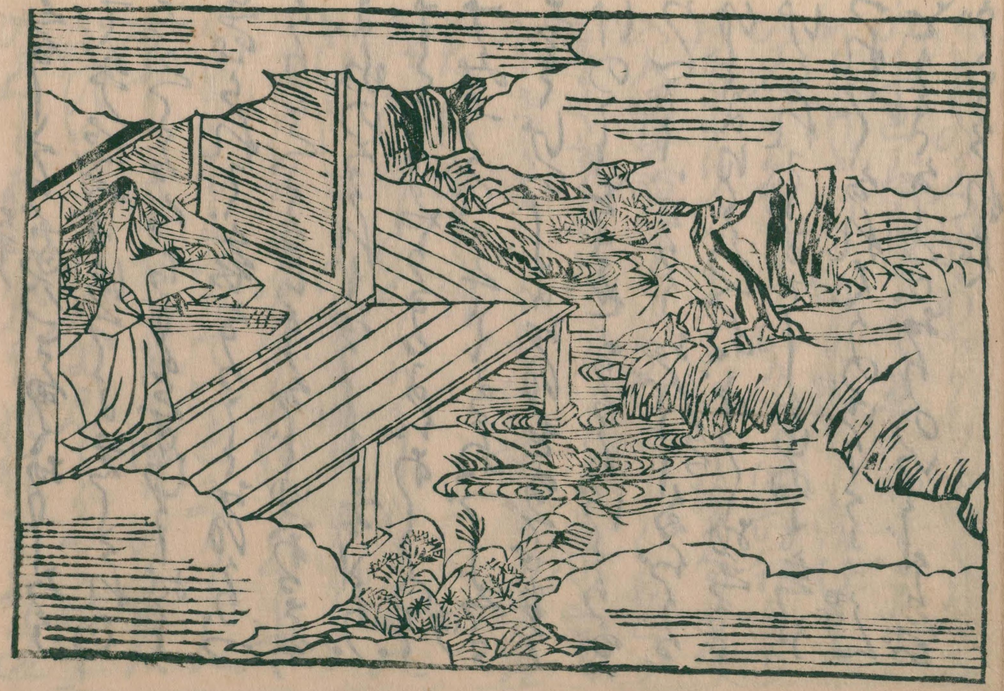
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

のぐなどのあるを見給ふにおもひいでゝ
尼君はこなたにか、いとしど
けなきすがたなりけりやとて御なほし
めしいでゝたてまつる。きちやうのもとに
より給ひて、つみかろくおほしたて給へる
人のゆゑは、御おこなひのほどあはれにこそ
おもひなしきこゆれ。いといたくおもひすまし給へ
りし御すみかをすてゝうき世
にかへり給へる心ざしあさからず。
またかしこにはいかにとまりておもひおこせ給
ふらむとさま〴〵になむと、いとなつかしう
のたまふ。すて侍りし世をいまさらに
たちかへりおもひ給へみだるゝを、
おしはからせ給ひければ、いのちながさの
しるしもおもひ給へしられぬるとうちなきて
あらいそかげに心ぐるしうおもひきこえ

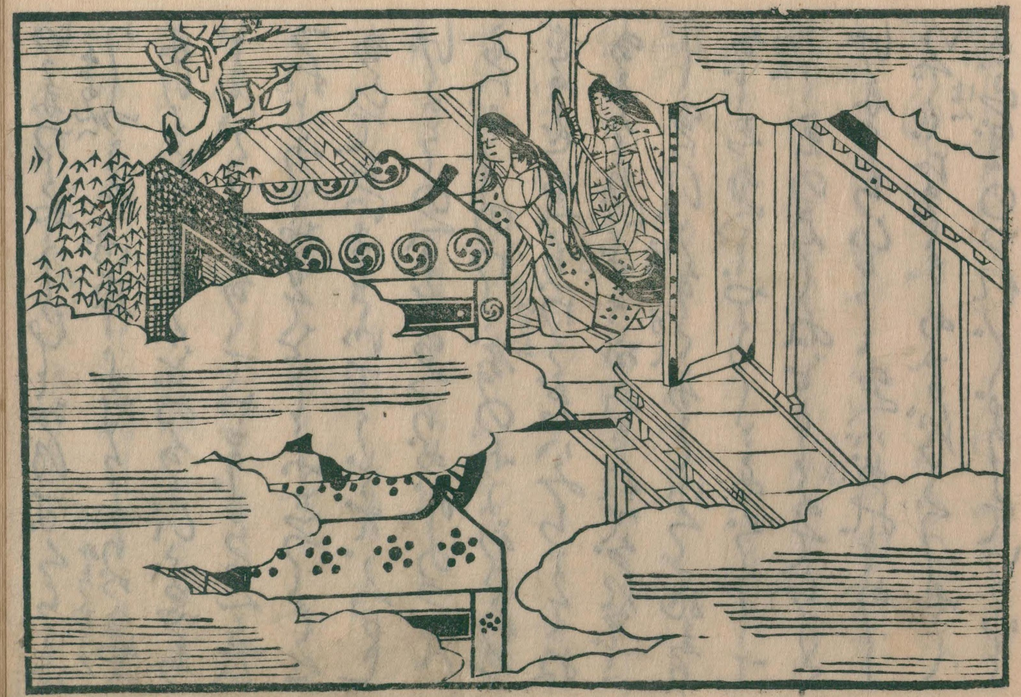
させ侍りしふたばの松も、いまはたのもしき御おひさき
といはひきこえさするを、あさきねざし
ゆゑやいかゞとかた〴〵心つくされ侍る
などきこゆるけはひ、よしなからねば、
むかし物がたりに、みこのすみ給ひける
ありさまなどかたらせ給ふに、つくろはれ
たる水のおとなひ、かことがましう
きこゆ。
すみなれし人はかへりてたどれども
しみづぞやどのあるじがほなる。わざとは
なくていひけつさま、みやびかによしと
きこしめす。
いさらゐははやくのこともわすれじを
もとのあるじやおもがはりせる。あはれ
とうちながめてたち給ふすがたにほひ
世にしらずとのみおもひきこゆ

おはすれき御所のひきそて、すくせ
らいまうしともいさりて、この日は宰相
うへせさせ給はれとも、すこし心あさけり
まさして、やすんされ、ゆりなされ給ふを。
うへの院よく、ておはしく参りつて
ひて、（大弁）ふるさ殿へ、あまりく参らり
（源）はまうそくすとしまてい（御）とうして
かたくはさらかくてありゆるへきくめ
みもあらぬさとて、さらてしなまひ
かれく出給ところてしされは、さり
けれくまはりつて。くちと宮の御
ゆくちはめのとはら君らからさきて
さしらてかり。（源）まうる御気色いさき
るてまえく（御）つてふまくるしうら御さ
そそいとおりつけられ。いかなるへきを
御とまし中のまへとうらうく（みのとも）

さのまゐりつるそしはまりも御かう
のはりてかしの御けしきかいりぬ人え。
心つくしてまさし御（めのと）らしてさき
し（源）まゐくちまつるをさへ（めのと）ひのつい。
（源）つかぬかるて、おも（御）しくゆるさるれ
見ましそ御らんずれ、さしまてもくる
しやり、いつるとり（りうち）かくならてぐお
しとかられ、さらにかそへ人心ちもせ
めとのまへて、（めのと）うちけしひて女房（りうち）くはしく
くらんと心（心）をさりく。物思ひされて
かしられたるとみのもうさまさ。
おはり（源）りて、めうしとおはしまさり。
くともうくうしてかれは、（りうち）さるくよ
のかりまつ程は、なくかれ給ふ
かくめいらしのまめのてなあり。
こまやかにかけひもとさへわるとかへ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

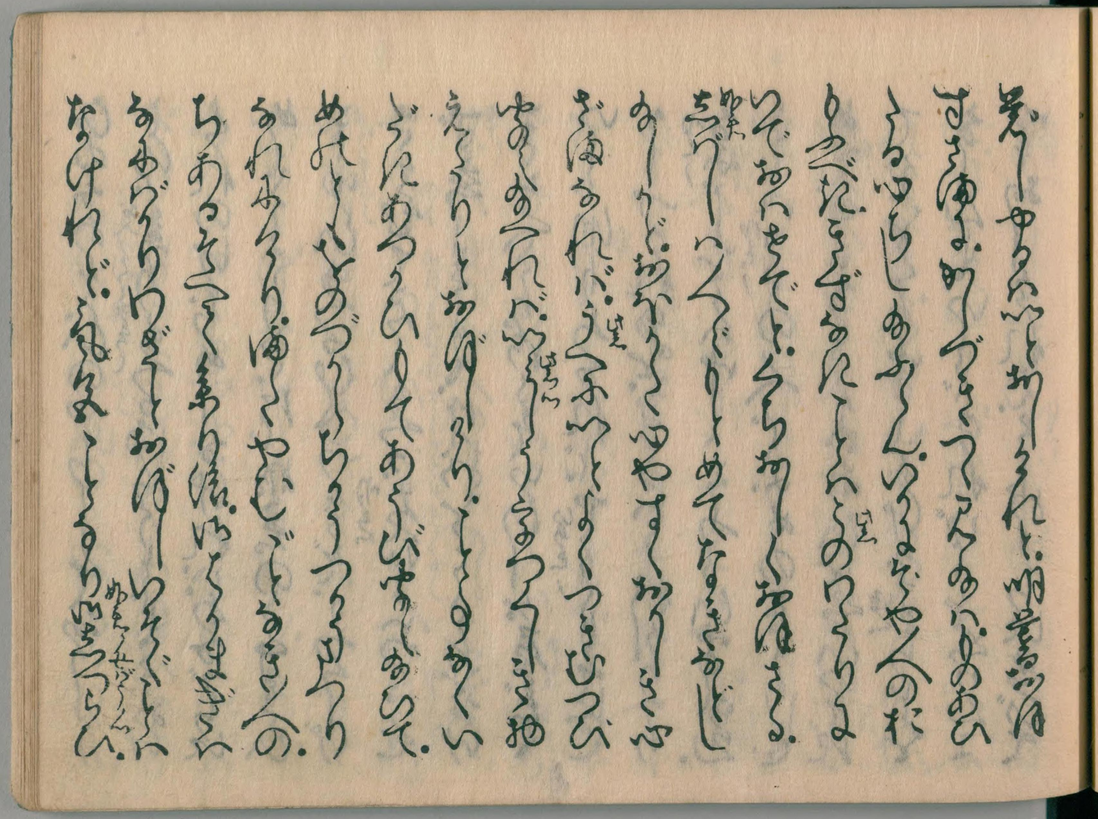
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

いかにつきやうしむとおぼす。くらうなり
（こまのかんへ）つきて。御車よするより。（めしうかんかん）いかやう
かけくひことするを。ぬかうびくるゆち
どもいくしくなくてやまじらんと思ひ
つれど。おしおりてとことに思つくるせ
ありて。ちいさきにでうど。ぞ。くつし
げよとてのへさせ給へり。めれとのつぼ
みに。おしのけて。なのかよあくわを
をさせ給へり。（ひめぎ）ひうぎ。ハみちうてね
ぬかくり。いぐさおろされて。なれなどハ
しかいぼ。（はしノ方し）うすくにくぐ。抱まり
などしたまへど。やうくこめぐして。
（ゆえ）たゞ。兎のこゝぬとりとめて。らうさ
げかうちひそこまへば。（係）めれとめし
いでく。なぐさめまぼらへしゆえ
な。（ほん）山里のつれぐ。ましていかにと

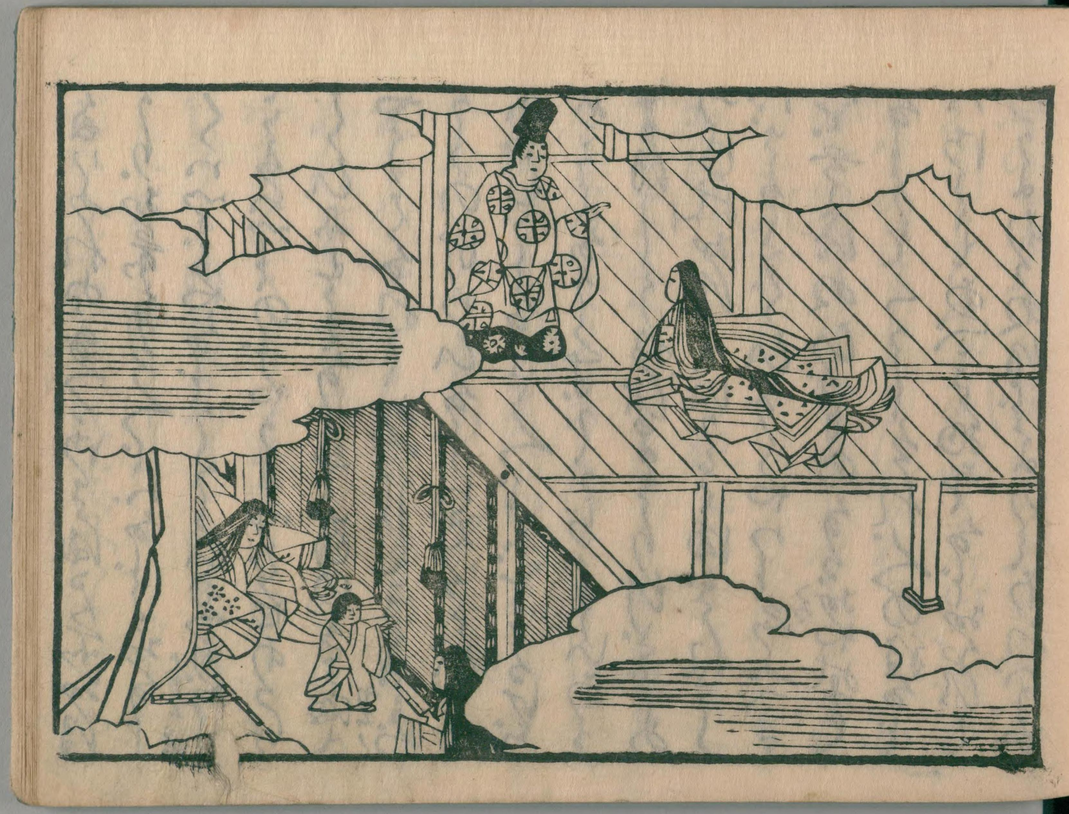


思しやるいとおしくれど。明暮おほ
すさまに。おしづきつゝこんなハ。りのあひ
くるゆちしなかん。いかにそやくのお
りかべ。おきずなれことにこの（はし）ひくりよ
いでおいをでと。くちおしくおほさる。
（ゆえ）しいくぐりとめてなきなどし
おしうど。おかうくゆやすくおしき心
ざまなれば。（はし）うへにいとよくつきむつび
ゆくおつれば。（はしい）いうしうなつくしき抱
えくりとおぼしかり。ことなかくい
ぐれあつかひりてあうびゆしおひて。
めれとしたのづくしちうつうさくり
なれかくり。ゆくやむごとなきくの。
ちあるそこく。まり給。はくりまぎれ
なかぐりわぎとおぼしいそぐことに
なけれど。（ゆえ）ことなり。（めしうかんかん）はしつらひ。

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10
ガラス使用

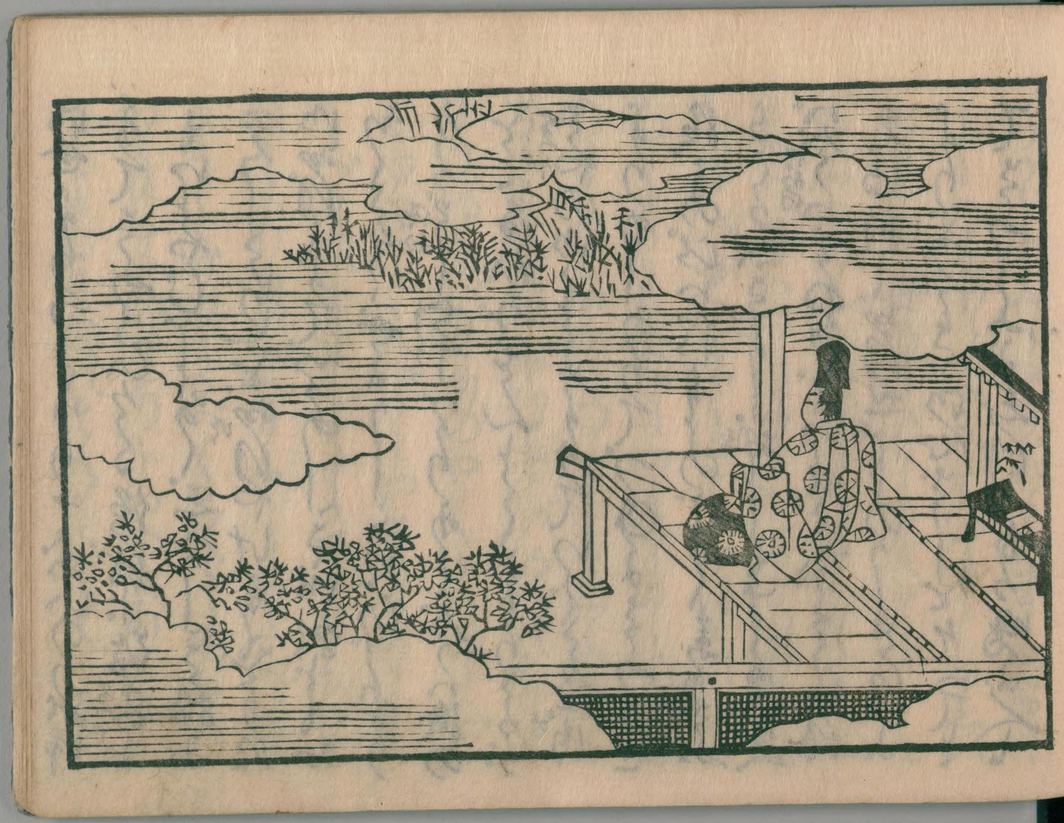
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

のびらかにつくり
衰へたるはあはれなるを世人これ
ば親のすむ所の夕風さへのび
かなるにおほくもかはりたしとゆえ
なよびかにこの源のいとおかしきに心あす
とおぼしける源氏の君なるなりけりのこなぞ
見えたるなまめかしうみゆるなり
たまのすだれ今すこしかゝげてしし
まつべきなれども、いとうるさくておぼへ
くるしうあり、またがたのいとわりなく
しう、昔のこゝろとおもふ人々そ
うちなげきさまつたる事の御ふかう
おもはしきに心づきなうこそ御が
しらめかやかりしづいとほいの源
めりなしきかれど、おきてはしいて
うとませ給へるが、海にしもゆき

人いかくてあらざらんかれより今ゝら
みなませ給ふなよづくらんとてい
こりすぬべうちこめありくる所はあらむ
とありしうちゆくへ、うら海しくおぼ
さらくつと見えてしかど年ひておぼ
源氏とよのこゝちがいかしくぬるよ
うちいりでうくしとりありめ御の枝
にさうせうる所はさゝ海なるらんゆゑ
しいとゆかしおぼつかないよいくるぞ
とくみもいりなりびいてうかがめて
そうちうふしまつりたらうとを
くやけてちかくてさるなゝせぞ
物語などをさせ給ひてあながち
なうこゝふかきのみぞうつくしきの給
まゐるよりはわが身なかりし御けり
しるくこれはとまげなくしき也

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10　ガラス使用

856
10

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 856-10

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 856-10

ガラス使用